

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373400898		
法人名	社会福祉法人 恵神会		
事業所名	グループホーム神庭荘		
所在地	岡山県真庭市組573番地		
自己評価作成日	平成27年10月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成27年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、家庭的な雰囲気を大切にし一人一人生き生きとした姿で、毎日安心して生活できる様支援させていただいています。目配り、気配り心配りに心がけ、笑顔で過ごせる毎日を努力していきます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所全体が明るい雰囲気職員と入居者が自然と共生している姿が窺え、入居者一人ひとりにしっかりと向き合いそれぞれの思いの把握に努め、尊厳とプライバシー確保にも取り組んでいます。経営母体が社会福祉法人で隣接した施設と地域との交流の継続にも努めており、またかかりつけ医、協力医との医療連携の充実も図られ入居者・家族の安心に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所に提示している。一人一人に合わせて介護出来る様職員に伝えている。職員一年目標も玄関に掲げ来訪者にも理解していただいている。	入居者一人ひとりのその日の体調・情態を職員間で共有し、や・い・ゆ・え・よ(やさしくいたわって・ゆとりをもって・えがおで・よろこんで)の介護をグループホーム独自の理念とし、実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、9月12月に2回地元婦人部の方と地域交流を図っている。毎月2回民話訪問があり、楽しく交流できている。	地元の中学生の職場体験学習や学生の介護実習生の受け入れを始め、年間の四季を通じて様々な行事、催しを地域との交流を深めながら進めており事業所自体、また併設する福祉施設と合同で地域の一員として日常的に交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にグループホームを理解していただける様気兼ねなく誰もが自由に出入りできる場所にしていく環境を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催しており地域の方、家族、行政担当者等からの質問、要望、提案事項についてのやりとり各事業所での取り組みや事業所の特徴について話を行っている。	市の担当者、民生委員、家族、利用者等が参加して地域の実情やグループホームの状況について報告・話し合いそこで出た意見をサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	6か月に1回、市グループホーム連絡協議会で市担当者の話も加わり情報交換や相互交流を行っている。各事業所間で問題解決していこうと各所合意し市の協力を得たり相談している。	市の担当者と運営推進会議を通じて又、市グループホーム連絡協議会などで協力関係を築くよう取り組んでいます。	半年に1回行う市グループホーム連絡協議会を有効に活用し、これからも事例検討など(臨床倫理)などを行ってみたいはどうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っておらず現時点ではないが危険性がある場合は家族に相談する。法人全体の研修参加へ職員全員が主となり業務の中で常に意識を持ちケアに取り組んでいる。	法人全体の研修に参加し意識統一を図り、理解に努めるとともに言葉かけやマナーなど職員間で目配りしながら、身体拘束をしないケアを心掛けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修、ミーティングにおいて話し合う機会を持っている。不明な点はマニュアルに目を通し再度確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族からの相談や必要に応じて管理者間で話し合いの場を持つ。活用が決定した場合、職員へ説明報告をしている。またいつでもマニュアルに目を通す事が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結解約又は、料金改定を含め書面に基づいて説明、取り交わしを実施している。理解納得を得、署名捺印をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回、手紙で状況報告をし、面会時直接家族へ意見や要望を聞く機会を設けている。家族同士の情報交換も年2回実施できている。玄関に意見箱を設置している。	家族代表の方が運営推進会議や入居者の催しに参加するよう他の家族に呼びかけてくれました。催しに参加する家族が増え、家族同士の情報交換の場となり、また、職員はその場で意見・要望を引き出すよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に話し易い環境作りを大切にし、ワーカー会議で介護のとらえ方、介助、仕事上の悩み、現場の意見、要望を話し合ったり業務に必要物品の購入、修理、修繕の要望も話し合い業務に反映させている。	管理者は職員一人ひとりの気持を大切にしたい。要望があればすぐに対応する様に心掛けて、ワーカー会議では、意見を出し合って話し合える環境づくりに努めています。職場の雰囲気は明るく話し易い環境が感じ取れます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が心身共に元気で日々楽しく勤務出来る様に就業規則に沿って可能な限り環境整備に努めている。さらに年2回人事考課制度を活用実施することで先の内容の拡充に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県、市各機関からの研修を業務の支障のない範囲で参加してもらおう。研修後の復命伝達で研修内容の共有化を図る社内研修へも参加し資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	真庭市グループホーム連絡協議会等を活用し行政と一体となった情報交換や研修会等に参加することで資質向上や情報の共有化を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状況を把握するように努め、現状について不安、要望に耳を傾けながら職員は本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の相談があった時点で面接をし。これまでの家族の苦労や経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで落ち着いてもらい信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いの状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を早朝に対応できるサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ることに努め、暮らしの中で分かち合い共に支えあえる関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態を細則に報告相談するとともに家族と家族と職員の思いが徐々に重なり本人を支えて行く為の協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴、長年住み慣れた地元での生活を大切に、地域やボランティアの方々と触れ合いで途切れない関係の継続に努めている。	入居者もボランティア活動も地元の方で、お互いが懐かしい馴染みの関係が続いています。地域のボランティア活動が活発で小学生を始め民謡・銭太鼓といった地元の方々がグループホームに定期的に訪問しています。また担当の職員が入居者個人の希望に沿った外出を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり相談にのったり皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面作りをするなどし利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設移動(特養)の場合、なるべく細かく情報提供を行う。グループホームで出来る限り相談にのれるよう心がけ対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の要望の対応に努めている。家族にも負担のない程度で本人の希望を伝え、協力を得ている。その人らしい暮らしの継続を大切にしている。	担当の職員がしっかりと向き合っ入居者の気持ちに寄り添って理解に努めています。入居者の希望を家族に伝え協力を求めるなど、本人本位に検討し、その人らしい暮らしの支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネからどのような生活を送って来られたかを聴き、その人独特の生活歴やライフスタイル、個性や価値観を把握、理解する様に努めサービスに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムの把握に努め、その人に合った生活、暮らしを大切にしている。利用者の出来ることを探し出来ることが力となりケアにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活歴、生活リズムをあらかじめ聞きとるが、情報不足なときは家族の面会時、聞きとる。また、伝達ノートの活用と共有で職員全体で検討し随時、現状に即した介護計画の見直しに活かしている。	入居者の現況、心身状態の把握に努め、又、家族からの情報などで本人本位に検討し、全職員で情報を共有する様努め介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の経過記録のほかに職員間で情報を共有することが出来る様伝達ノートを活用し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じての通院や家族との外出、外泊、面会も自由に行って頂き、必要サービスに臨機応変に提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の地域代表(1名)に依頼し、組婦人部の方々との交流が継続出来ている。また地域の方々に行事等の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を基本としている。協力医療機関の往診や通院介助も行い医療連携を築いている。	通院は歯科など専門医の受診支援も行っています。日々の状態と薬を服用した時の状態が分かるように記録を取り、常勤の看護師が受診の際同行し、医師に情報を伝え入居者が適切な医療を受けられるよう努めています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時に介護職では判断出来かねない時は主治医の病院へ連絡を取り指示を仰ぐ様になっている。又、特養看護師にへも連絡相談出来、適切な看護が受けられる支援体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、グループホームでの様子を記入した情報提供を行い、入院期間は、ソーシャルワーカー、病棟看護師等と連絡をとり、早期退院に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所での重度化、看取指針については本人、家族の希望や意向をふまえ、説明同意をいただいている。ただ、法人内の特養への移行、希望が多く、事業所内での実施例はない。	本人・家族の希望、状況に合わせた対応に取り組んでいます。法人内で看取りの研修もあり、経験者もいますので法人・医師と連携して支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や応急手当等の対応マニュアルを作成している。社内研修(AED蘇生法等)で実施力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に一度、当事業所単独の避難訓練と法人全体の避難訓練を実施している。年度内に専門的な事柄を消防関係機関の方から指導を受ける予定である。	火災避難訓練だけでなく災害訓練の必要性を痛感し計画中です。また防災の日には「非常食訓練」として、備蓄している食品を実際に食べてみて改善・改良に繋げています。隣接する法人の特別養護老人ホームが行政から避難場所の指定を受けています。	この辺りは山裾に近く土砂崩れの危険性が考えられるので、早急に大雨の時の避難訓練の実施と避難誘導のマニュアルを作成し、全職員が避難方法を身につける事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人に合わせた言葉かけを心がけている。特に排泄面や入浴に関しては本人の気分を損ねないような声掛けを行い対応している。	入居者一人一人に合わせた言葉かけやまた、入居者と職員の間が慣れ合いにならないよう、人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮している様子が窺えます。	安全と尊厳は相対することになりがちのものです。これからも事業所内外の研修を活かし、一人ひとりの人格に配慮した、声掛け・接遇に引き続き取り組まれることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声掛け、希望、関心、嗜好を見極め、それを基に日常の中で本人が選びやすい(食べたい、飲みたいメニュー、するしない等)自己決定出来る様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の日々のペースを大事にして生活をしてもらう。また、随時希望に添える様支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまで使い慣れた道具や化粧品を持ちこんでいただき継続して本人なりの身だしなみやおしゃれをされている。本人の馴染みの理美容院に来所していただき髪を整えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に買い物に行ったり、野菜の皮むきや切ったりお皿に盛りつけをしている。利用者に体調の変化が見られた時は併設事業所の管理栄養士と連携を図っている。	季節の野菜など家族から差し入れがあり、出来る事を一緒に準備しながら食欲を誘う匂い、音を感じながら盛り付けの色彩など工夫し、食事を楽しむことのできる支援に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや食事携帯を考慮しつつ食べる量や水分量にも気を配っている。本人の好きな食べ物を出すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを行っている。時々、舌のケアも行い本人に合わせた介助を行っている。一週間に一度入れ歯洗浄を使用している。生歯には、歯みがき粉を付けて磨いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行きたいときにトイレに行くという生活のリズムに沿った本人に合わせた自立支援に努めている。利用者の様子を敏感に察知し身体機能に応じて手を差し伸べたり歩行介助をしている。	入居者一人ひとりの生活リズムと毎日の体調を把握し、また本人の残存能力に応じてトイレ誘導を行っています。永年紙パンツを使用していたが、布パンツとパットに変更できた入居者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録表を毎日付けている。午前10時の水分補給時、毎日カスピ海ヨーグルトや十分な水分補給、繊維質の多い食材など提供している。適度な運動、散歩も取り入れ身体を動かす大切さを常に意識し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴できる様に配慮する。一人一人に合った入浴支援に心がける。入浴拒否が見られる方には気分を損ねない様な声掛けに工夫したり午前午後のどちらかに入浴出来、希望に合うよう対応に努めている。	入浴の際、視線に入らない様見守りをするなど一人ひとりに合わせ、ゆっくり入浴してもらえる様配慮しています。又、湯量や温度も安全を考慮したうえ、本人の希望に添い入浴を楽しめるように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温管理や換気を随時行い、気持ち良く眠れるように支援している。昼食後の休憩時間をとったり日中の活動に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容の説明書きをファイリングし、全員に把握できるようにしてあり、申し送りや伝達ノートを活用し理解できるようにしている。特に状態変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮してもらえるようにお願出来るような仕事をもらう。感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者全員で季節の折にはドライブに出かけている。担当職員が自分の担当する利用者として少人数で買い物、食事、ドライブに出かけている。又、家族にも協力いただくこともある。	四季折々の外出支援はもとより、担当の職員と入居者・家族とで誕生祝いをしたり、担当職員が食事当番の時、買い物にも一緒に外出をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持等は、入所前に家族や本人と話し合い決めており、預り金等管理同意書も頂き、事業所でお金を保管管理している。出納帳へ記入し面会時、目を通して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛の手紙は確実に渡している。家族からの電話も受けており、家族との会話をとても喜ばれ家族の協力をお願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有ホールからは、季節ごとの花や野菜を植えた庭が見え、変化を感じることが出来る。壁画を担当者が飾ったり季節の行事参加の様子などスナップ写真を掲示している。	大きな窓と高い天井で広々とした共用空間に四季折々の演出が施され、仲睦まじく生活している様子が窺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の場では、気の合った利用者同士でソファに座り会話が弾んでいる。静かに過ごしたい方は、自室でテレビ観賞など思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には、いままで使い慣れた物や写真、思い出の品々が持ち込まれ居心地良く安心して暮らせるよう工夫し家族と相談している。	各居室に洗面台があり、トイレのある部屋も2室あります。一人ひとりの思い出の品と馴染みの物に囲まれ、プライバシーを大切にしながら居心地よく過ごせる様にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ手すりの設置、一人一人の分かる力を見極め必要な目印をつけたり物の設置に配慮している。		